

平成25年度 防衛大学校卒業式
防衛大臣訓示

本日ここに、自衛隊の最高指揮官である安倍晋三内閣総理大臣の御臨席の下、防衛大学校本科及び研究科の卒業式が挙行されるに当たり、防衛大臣として一言申し上げます。

卒業生諸君、そしてご子息ご子女の成長を楽しみにされ、励まし続けてこられた御家族の皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

諸君は、伝統あるこの小原台の地に集い、それぞれ学問の研鑽と心身の錬磨に励み、「広い視野、科学的思考力、豊かな人間性」を育むとともに、友情と信頼の絆を築いてこられました。ここに晴れて卒業の日を迎えられ、感慨無量のことと思います。

本科卒業生諸君は、本日から自衛官として第一歩を踏み出し我が国の平和と安全を確保する崇高な任務に就くわけですが、本校で養った誇りあるリーダーとしての資質を基礎とし、国民に信頼される精強な自衛隊を作るため、不断の精進を重ね、新しい時代を担うに相応しい堂々たる幹部自衛官として大きく成長されることを切望いたします。私は、新進気鋭の諸君が自衛隊の第一線に加わることを心から歓迎し、大きな期待を抱くものです。

現在の我が国を取り巻く安全保障環境は、北朝鮮による「人工衛星」と称するミサイル発射や核実験実施を含む挑発行為、中国による我が国領海への侵入や領空侵犯、「東シナ海防空識別区」の一方的な設定など我が国周辺海空域に関する活動の急速な拡大・活発化などがみられ、一層厳しさを増しています。

このような我が国を取り巻く厳しい安全保障環境を踏まえ、昨年我が国として初めて、国家安全保障会議が新設され、国家安全保障戦略が策定するとともに、これを踏まえ、新たな「防衛計画の大綱」及び「中期防衛力整備計画」が決定されました。

我々は、この方針に従い、国民の生命・財産、我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜くという強い決意を持って、自衛隊に求められる役割に十分対応できるよう、即応性や持続性、強靱性、接続性を重視した「統合機動防衛力」を構築し、防衛力の「質」と「量」の両面から、抑止力及び対処力を高めていかなければなりません。

今年、防衛省・自衛隊は、発足から六十年を迎え、この節目の年に、新

「防衛大綱」の下、新たな防衛力の在り方を実現するための第一歩を踏み出す年となります。諸君には、私とともに、国民の期待と信頼に応え、防衛力の適切な整備、維持及び運用を図るために、これからも全力を尽くしてもらいたいと思います。

自衛隊は、諸君の先輩たちの六十年にわたる努力の積み重ねにより国内外から高い評価を得て、多くの国民から期待と信頼を集める組織となっております。こうした国民の期待と信頼に一層応えるためには、他のいかなる組織よりも高い規律が求められます。

そうした中、今年度、本学学生から保険金の不正請求事案による懲戒退校処分が出たことは、防衛大学校に対する国民の信頼を裏切り、防衛大学校を誇りに思う方々の想いを損なうものであり、防衛を預かる大臣として誠に遺憾に思います。このような行為は決して許されるものではありません。

榎智雄初代学校長は、気風の弛緩に至る「心の遅れ」に厳しく鞭打ち、自他の過ちを看過しない自戒自律の精神を防衛大学校に求めました、そしてこうした厳しさを回避するところには沈滞と腐敗が生じ、集団生活の意義や明朗さも姿を消すに至ると指摘されました。諸君は、この言葉を噛みしめて、この問題の重大さを再認識してもらいたいと思います。その上で、21世紀の環境下で引き続き国民の負託に応じて行けるよう全力を尽くしてもらいたいと思います。

各国からの留学生の皆さん、言葉や習慣の違いを克服して、本日、無事に卒業の日を迎えられたことに心より敬意を表します。留学生の皆さんが、わが国での経験を糧として母国において大成され、また本校で培った友情と信頼をもとに、貴国と我が国との友好協力関係を、より一層推進するための架け橋となってくださることを心から要望いたします。

また、研究科を卒業する諸君、軍事や安全保障といった分野での諸君の研鑽は貴重なものであり、本校で身につけた高度で専門的な知識・能力をそれぞれの持ち場で十分に発揮し、今後益々御活躍されることを期待いたします。

最後になりますが、日頃から防衛省・自衛隊、防衛大学校に対し多大なる御理解・御協力を賜っております御来賓の皆様に対し、深く感謝申し上げます。

げますとともに、これまで学生に対し多大なる情熱と愛情をもって教育に取り組んでこられた國分学校長をはじめとする教職員各位に敬意を表し、私の訓示と致します。

平成二十六年三月二十二日

防衛大臣 小野寺 五典